

例 1 (2年生)

歯肉の状態-1 (GO)

歯肉に軽度の炎症症状が認められているが、歯石は認められず注意深いブラッシングを行うことによって炎症が消退するような歯肉の状態

歯垢の状態-1

歯面の1/3以下に歯垢の付着がみられる

現在歯

口腔内に歯冠の全部又は一部見えるもの処置、未処置等にかかわらず斜線(/)を記入する

フィッシャーシーラント処置歯は、健全歯として扱う

(シ)と記入しない

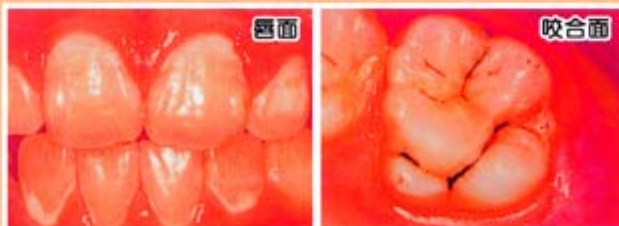
シーラントかレジン充填か迷う場合は、シーラントにする

年 齢	歯列・咬合・顎関節の状態	歯垢の状態	歯肉の状態	歯式		歯の状態					その他の疾病及び異常	学 科 所 見	校 医 年 月 日	備 考			
				歯		乳 歯		永 久 歯							喪失歯数		
				現在歯(例 A 8)	う歯 未処置歯 C 処置歯 O	現在歯数	未処置歯数	処置歯数	現在歯数	未処置歯数						処置歯数	
7 歳	① 0 2	① 0 2		上 下	右 左	8 7 6 5 4 3 2 1 1 2 3 4 5 6 7 8	8 7 6 5 4 3 2 1 1 2 3 4 5 6 7 8	12	3	2	12	0	1	0	口臭	EICOで要精検 GO ⑩	

要観察歯(CO)について

取り扱い上は健全歯とする。基本的には視診にて行い、う蝕とは判断できないが初期病変の疑いのある歯です。

小窩裂溝の着色が認められるもの、または、平滑面における脱灰を疑わせる白濁や褐色斑が認められるが、エナメル質の軟化、実質欠損が確認できない歯をいう。



⑩は乳歯において、フッ化ジアミン銀(サハライド)塗布歯で、進行が完全に停止したものをいう。取り扱い上は未処置歯とする。
サハライド塗布歯でも実質欠損があれば未処置歯(C)とする。

COの診査の注意点

歯科健診において、不適切な探針の使用は、歯の脱灰部の再石灰化を妨げる危険性があるので、細心の注意を払う必要がある。視診で、より正確に判定するためには、受診者に前もって歯垢を除去しておくことが重要。

また、隣接面などでう蝕の疑いがあるが断定できない場合は、まず“CO”として、所見の欄に要精検と記入する。